

付録 C : MPO/MTP(WX4500 専用)

目次

第 1 章	概要.....	C-2
	機器の設定 (SETUP)	C-2
	ツール画面 (ローカル側)	C-3
	ツール画面 (リモート側)	C-4
第 2 章	オートテストの設定および準備	C-5
	テスト規格の変更.....	C-5
	チャンネル選択	C-6
	ケーブル・メーカ設定.....	C-7
	リファレンス設定.....	C-8
第 3 章	オートテストの実行	C-10
	リモート側の設定.....	C-10
	ローカル側の設定と結果表示.....	C-11
第 4 章	その他の機能	C-12
	パワーメータ	C-12
	エラーメッセージ.....	C-15

第 1 章 概要

機器の設定 (SETUP)

MPO/MTP のセットアップ画面には下記のような 3 画面があり、画面下段のナビゲーションタブで各画面が表示できます。

- ・テスト設定画面 : オートテストを行う為のテスト規格、ケーブルタイプ、テスト結果保存時のファイル名などの設定が行なえます。
- ・システム設定画面 : 日付/時刻、自動電源オフ、テスト結果のオートセーブなどの設定が行えます。
- ・機器情報画面 : 機器のシリアル No、ソフトウェアバージョン、校正年月日、接続されているテストアダプタの情報が表示されます。



ツール画面 (ローカル側)

ローカル側のツール画面からワイヤーエキスパートを使用してトラブルシューティングを行えます。「基準値設定」、「パワーメータ」、「ファイバマップ」の測定を行えます。



ツール画面 (リモート側)

リモート側のツール画面から MPO 光源をチャンネル単位で有効(ON)/無効(OFF)の設定が可能です。



第 2 章 オートテストの設定および準備

テスト規格の変更

ローカル側のワイヤーエキスパートで設定を行います。

1. タッチレンズ『SETUP』をタッチします。
2. 『試験設定』(Navigation タブの左)をタッチして『規格』タッチします。
3. 『Custom Limit』をタッチします。
4. 『ロス上限値』を入力後、『✓』をタッチします。



チャンネル選択

1. タッチレンズ『SETUP』をタッチします。
2. 『試験設定』(Navigation タブの左)をタッチして『チャンネル選択機能』タッチします。
3. 測定対象チャンネルを選択します。『チャンネル番号ボタン』をタッチして有効/無効を設定します。
4. 選択完了後、『✓』をタッチします。

※ 下記画面では、チャンネル 2 を有効 → 無効に設定しています。



ケーブル・メーカー設定

1. タッチレンズ『SETUP』をタッチします。
2. 『試験設定』(Navigation タブの左)をタッチして『チャンネル選択機能』タッチします。
3. 『Generic MMF』をタッチします。
4. 適合する『ケーブル・メーカー』をタッチします。



リファレンス設定

ワイヤーエキスパートでは、Type A, B, C の 3 種類のリファレンス設定が可能です。試験状況に応じて対応するリファレンス設定を実施してください。

<リモート側の設定>

リモート側(光源)はレーザの ON/OFF 設定を行います。尚、リファレンス設定を実行する場合はレーザを ON に設定して下さい。

1. 対応するリファレンスコードでリモート側とローカル側を接続します。
2. タッチレンズ『AUTOTEST』をタッチします。
3. 画面右下のアイコンで送信 ON/OFF の設定が可能です。



送信 ON



送信 OFF

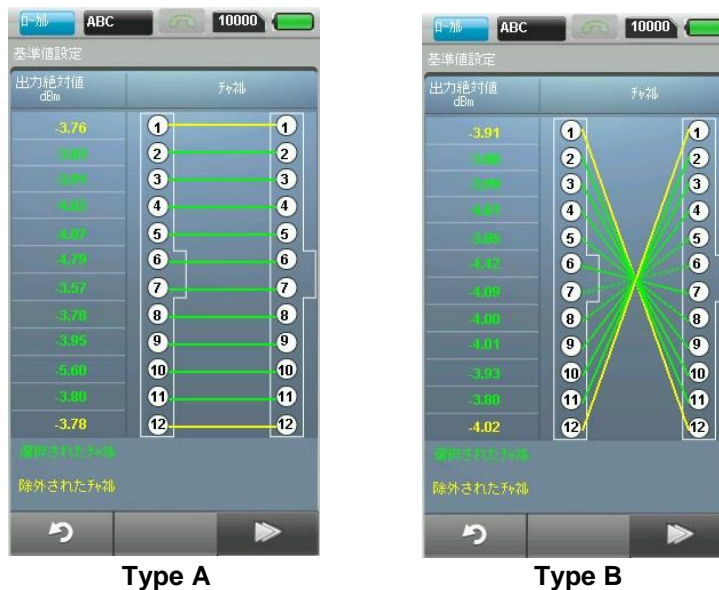
<ローカル側の設定>

実際のリファレンス設定はローカル側から実施します。

1. オートテスト設定で規格、チャンネル選択、ケーブル・メーカを設定します。
2. タッチレンズ『TOOLS』をタッチして、『基準値設定』アイコンをタッチします。
3. 自動的にリファレンス設定が開始されます。



リファレンス設定結果



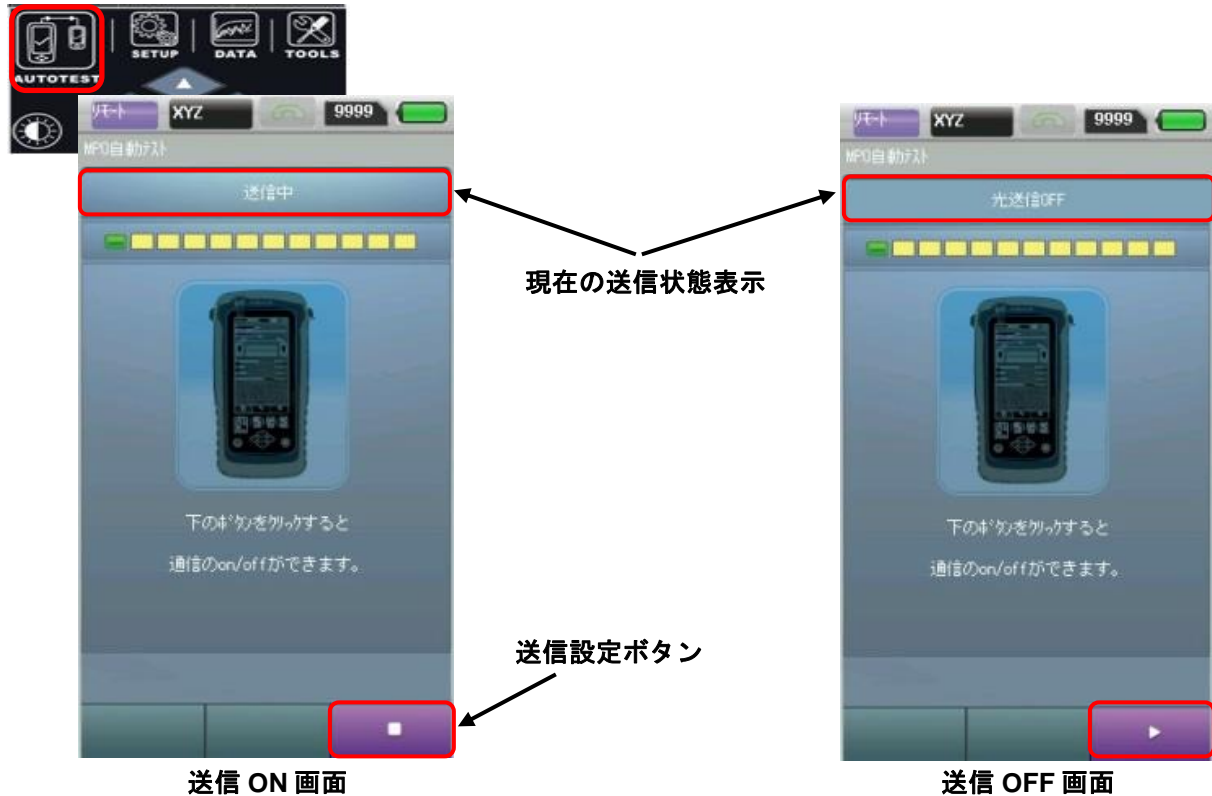
第 3 章 オートテストの実行

測定ボタンをタッチするだけで挿入損失(ロス)、極性(ファイバマップ)が数秒で測定できます。オートテストを実施する前にリモート側とローカル側の設定を行ってください。

リモート側の設定

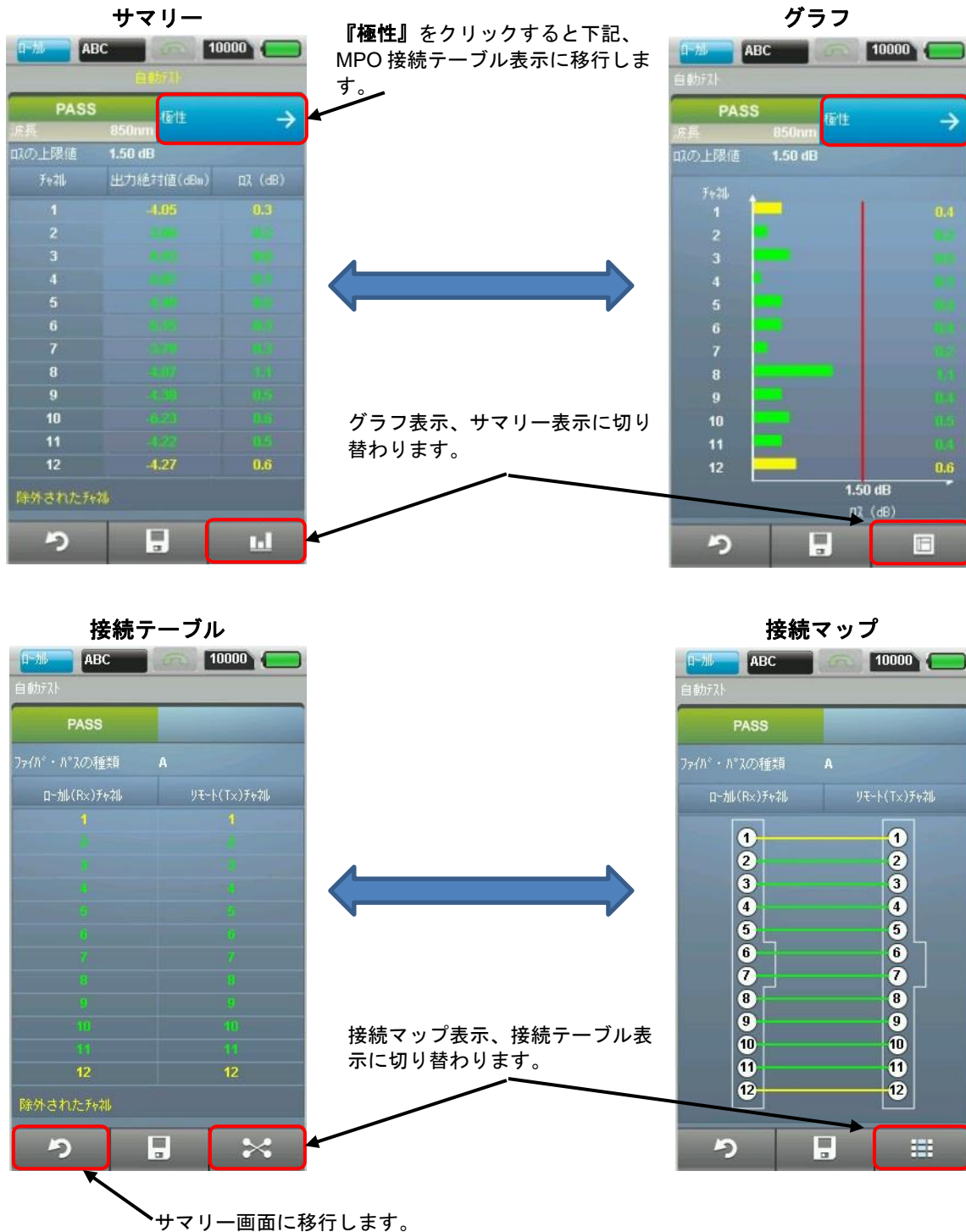
1. 対応するリファレンスコードを使用してリモート側とローカル側を接続します。
2. タッチレンズ『AUTOTEST』をタッチします。

※ 画面右下のボタンで送信 ON/OFF が設定可能です。(測定中は送信 ON)



ローカル側の設定と結果表示

1. リモート側とローカル側の接続およびリモート側の送信設定(ON)を確認します。
2. タッチレンズ『AUTOTEST』をタッチします。測定が開始され、以下のように結果が表示されます。



第 4 章 その他の機能

パワーメータ

<リモート側の設定>

1. タッチレンズ『TOOLS』をタッチします。
2. MPO 光源の設定画面が表示されます。チャンネル単位で発光/非発光が設定できます。





クリックすると、全チャンネルが非発光に設定されます。



クリックすると、発光と非発光が反転します。



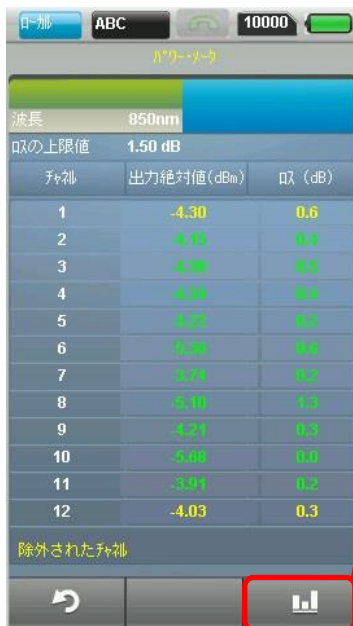
<ローカル側の設定と結果表示>

1. タッチレンズ『TOOLS』をタッチします。
2. 『パワーメータ』アイコンをタッチします。パワーメータとして測定が開始されます。



<結果表示>

サマリー画面



グラフ画面



クリックすると、グラフ表示とサマリー表示に切り替わります

エラーメッセージ

<ローカル側とリモート側の測定モード不一致>

- リモート側で以下のエラーメッセージが表示された場合は、タッチレンズの『TOOLS』をタッチしてリモート側をパワーメータモードに変更して下さい。
(ローカル側：パワーメータモード、リモート側：オートテストモード)

<エラーメッセージ>



<対処方法>



- リモート側で以下のエラーメッセージが表示された場合は、タッチレンズの『AUTOTEST』をタッチしてリモート側をオートテストモードに変更して下さい。
(ローカル側：オートテストモード、リモート側：パワーメータモード)

<エラーメッセージ>



<対処方法>



送信(発光)状態に設定